

# 育児について

## 1 育児に対する意識

### (1) 子育てに対する楽しさ・辛さ

問 27 [カード 23] あなたは、子育てに楽しさを感じるときが多いですか、それとも辛さを感じるときが多いですか。この中から1つだけ選んでください。

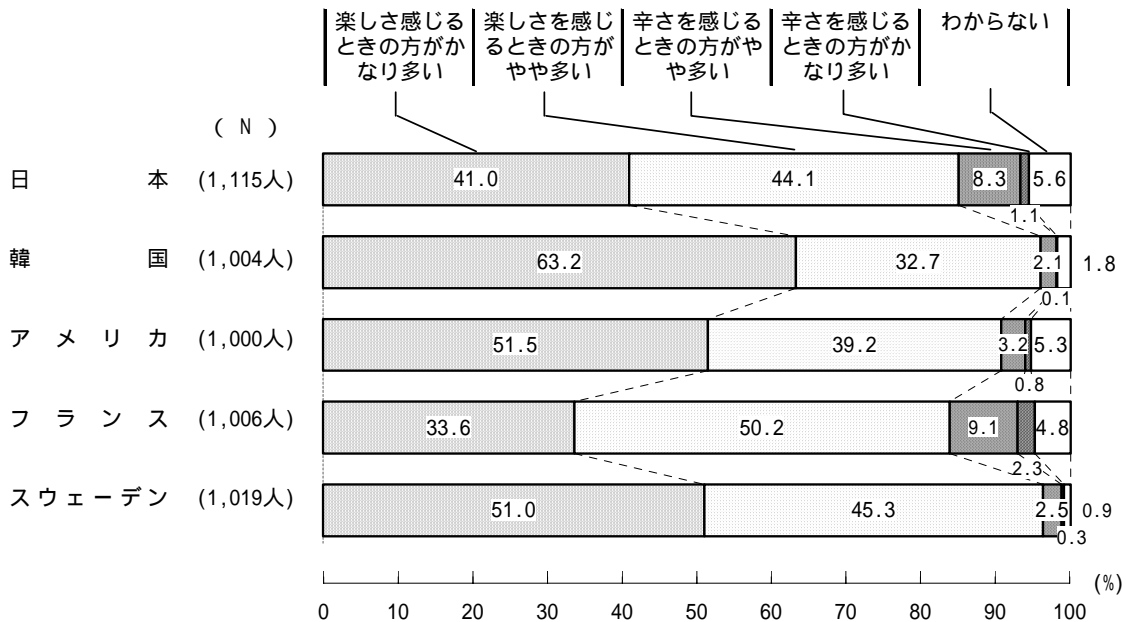
(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。)

- 1 楽しさを感じる時の方がかなり多い
- 2 楽しさを感じる時の方がやや多い
- 3 辛さを感じる時の方がやや多い
- 4 辛さを感じる時の方がかなり多い
- 5 わからない

子育てに楽しさを感じるときが多いか、それとも辛さを感じるときが多いか聞いたところ、日本では、「楽しさを感じる時の方がかなり多い」(41.0%)と「楽しさを感じる時の方がやや多い」(44.1%)を合わせた『楽しさを感じる時の方が多い』が85.1%と高く、「辛さを感じる時の方がやや多い」(8.3%)と「辛さを感じる時の方がかなり多い」(1.1%)を合わせた『辛さを感じる時の方が多い』(9.3%)を大きく上回っている。

各国比較でみると、いずれの国でも『楽しさを感じる時の方が多い』が8割から9割を占めている。(図3-1)

図3-1



(2) 子育てをしてよかったと思うこと

問 28 [カード 24] あなたが、子育てをしていて、よかったと思うことは何ですか。あてはまるものをいくつか選んでください。(M.A.)

(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください)

- 1 家庭が明るくなる
- 2 身近な人が子どもと接して喜ぶ
- 3 生活にはりあいができる
- 4 子育てを通じて友人が増える
- 5 子育てを通じて自分の視野が広がる
- 6 子育てを通じて自分も精神的に成長する
- 7 夫婦の愛情がより深まる
- 8 その他(具体的に )
- 9 良いと思うことは特にない
- 10 わからない

子育てをしていて、よかったと思うことは何か聞いたところ、「家庭が明るくなる」(76.5%)が最も高く、次いで「子育てを通じて自分も精神的に成長する」(60.9%)、「生活にはりあいができる」(58.1%)、「子育てを通じて自分の視野が広がる」(49.3%)、「子育てを通じて友人が増える」(38.3%)などとなっている。

各国比較でみると、「家庭が明るくなる」を最も多く挙げている国が多い中で、スウェーデンでは、「子育てを通じて自分も精神的に成長する」(85.4%)が最も多くなっている(表3-1)。

表3-1

(%)

順位 国名	1	2	3	4	5
日 本 1115	家庭が明るくなる 76.5	子育てを通じて自分も精神的に成長 60.9	生活にはりあいが できる 58.1	子育てを通じて自 分の視野が広がる 49.3	子育てを通じて友 人が増える 38.3
韓 国 1004	家庭が明るくなる 83.3	生活にはりあいが できる 62.2	夫婦の愛情がより 深まる 45.8	子育てを通じて自 分も精神的に成長 40.0	身近な人が子ども と接して喜ぶ 39.5
ア メ リ カ 1000	家庭が明るくなる 75.9	子育てを通じて自 分も精神的に成長 50.5	生活にはりあいが できる 48.5	夫婦の愛情がより 深まる 46.4	子育てを通じて自 分の視野が広がる 42.5
フ ラ ン ス 1006	家庭が明るくなる 63.8	生活にはりあいが できる 62.0	子育てを通じて自 分も精神的に成長 45.1	子育てを通じて自 分の視野が広がる 33.7	夫婦の愛情がより 深まる 32.1
スウェーデン 1019	子育てを通じて自 分も精神的に成長 85.4	生活にはりあいが できる 74.7	家庭が明るくなる 71.1	子育てを通じて自 分の視野が広がる 65.5	身近な人が子ども と接して喜ぶ 60.5

(3) 子育てをして負担に思うこと

問 29 [カード 25] あなたが、子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことですか。この中からいくつでも選んでください。  
(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください)。(M.A.)

- 1 子育てによる身体の疲れが大きい
- 2 子育てによる精神的疲れが大きい
- 3 子育てに出費がかさむ
- 4 自分の自由な時間が持てない
- 5 夫婦で楽しむ時間がない
- 6 仕事が十分にできない
- 7 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない
- 8 子どもが病気のと
- 9 その他(具体的に )
- 10 負担に思うことは特
- 11 わからない

子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことが聞いたところ、日本では、「子育てに出費がかさむ」(46.5%)が最も高く、次いで「自分の自由な時間が持てない」(42.4%)、「子どもが病気のと

き」(36.3%)などとなっている。  
各国比較でみると、いずれの国でも「子育てに出費がかさむ」が最も多くなっており、特に韓国では75.6%と他国に比べて際立って高い。

2位以下の項目をみると、韓国では日本と同様の傾向となっているが、スウェーデン、アメリカ、フランスでは、「自分の自由な時間が持てない」の割合は低くなっている。スウェーデン、アメリカでは、「子育てによる身体の疲れが大きい」が2位となっている。(表3-2)

表 3 - 2

順位 国名		(%)				
		1	2	3	4	5
日 1115	本	子育てに出費がかさむ 46.5	自分の自由な時間が持てない 42.4	子どもが病気のと き 36.3	子育てによる精神的疲れが大きい 29.2	子育てによる身体の疲れが大きい 23.8
韓 1004	国	子育てに出費がかさむ 75.6	自分の自由な時間が持てない 42.9	子どもが病気のと き 39.3	子育てによる精神的疲れが大きい 32.3	子育てによる身体の疲れが大きい 31.6
ア 1000	メ リ カ	子育てに出費がかさむ 59.2	子育てによる身体の疲れが大きい 38.5	子どもが病気のと き 33.1	自分の自由な時間が持てない 30.2	夫婦で楽しむ時間がない 25.2
フ 1006	ラ ン ス	子育てに出費がかさむ 40.8	子どもが病気のと き 37.0	子育てによる精神的疲れが大きい 29.7	子育てによる身体の疲れが大きい 26.9	自分の自由な時間が持てない 21.2
ス 1019	ウェ ー デン	子育てに出費がかさむ 59.8	子育てによる身体の疲れが大きい 59.1	子どもが病気のと き 55.3	子育てによる精神的疲れが大きい 33.6	仕事が十分にできない 29.2

## 2 母乳育児について

### 母乳育児の期間について

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 30 [カード 26] (女性に) あなたは、最初のお子さんを母乳で育てられましたか。

(男性に) あなたの配偶者は、最初のお子さんを母乳で育てられましたか。

- 1 母乳育児はしなかった
- 2 母乳育児をした(人工乳との混合も含む)
- 3 わからない

【問 30 で「2」と答えた方に】

S Q 母乳をやめた時期は、生後いつ頃ですか。

(現在も母乳育児を続けている場合) 現在お子さんは、生後何ヶ月になりますか。

- 1 生後 (  ) ヶ月
- 2 現在も続けている (  ) ヶ月
- 3 わからない

子育て経験者に、最初の子どもを母乳で育てたか聞いたところ、「母乳育児をした(人工乳との混合も含む)」が81.1%を占めている。(図3 - 2)

また、母乳をやめた時期を聞いたところ、「生後10~12ヶ月」(34.4%)が最も高くなっている。(図3 - 3)

各国比較でみると、「母乳育児をした(人工乳との混合も含む)」はスウェーデン(92.6%)、韓国(68.4%)が日本と同じく高くなっており、逆にアメリカ、フランスでは「母乳育児はしなかった」が5割を超えている。(図3 - 2)

母乳をやめた時期については、韓国で日本と同じく「生後10~12ヶ月」(31.5%)が最も高くなっている(図3 - 3)。

図 3 - 2

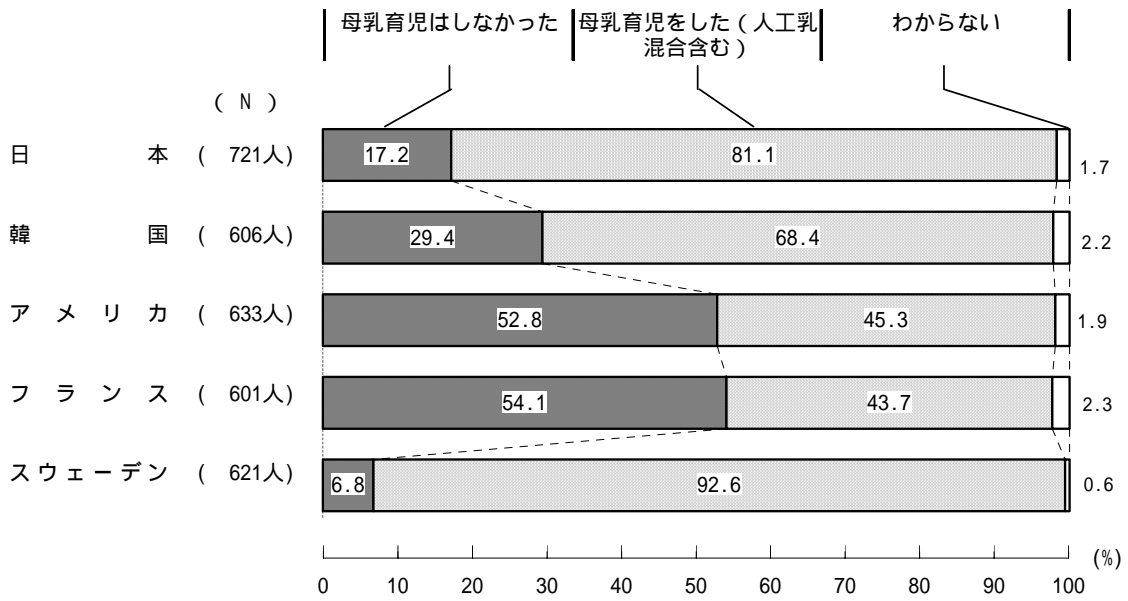
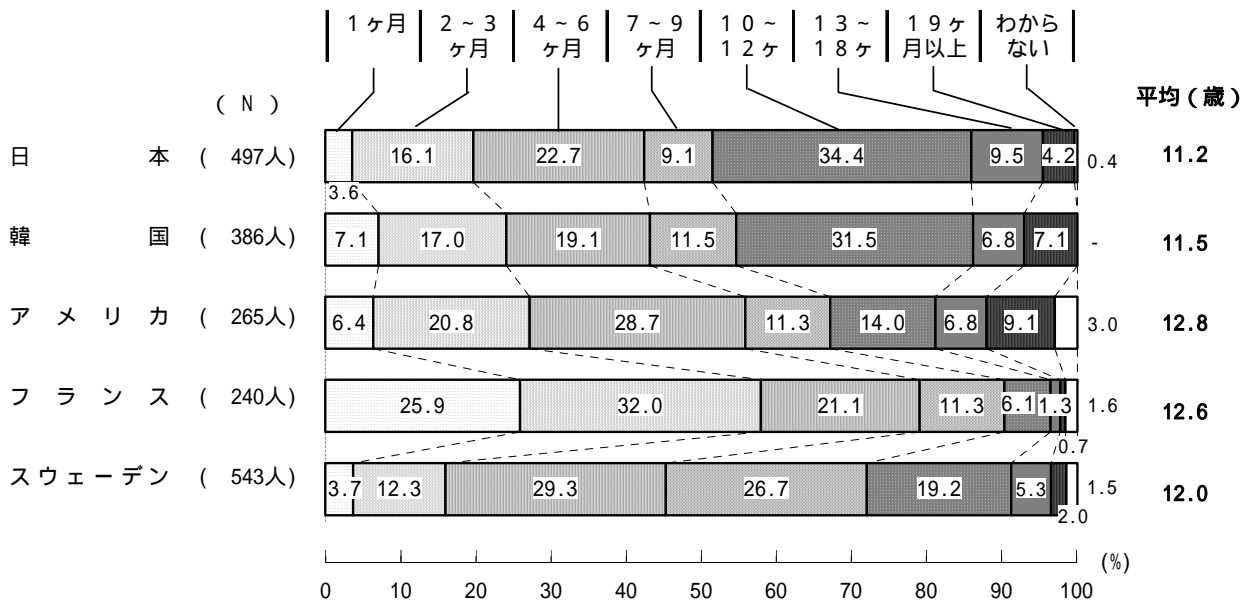


図 3 - 3



### 3 育児を担う者

#### (1) 就学前の子どもの育児における夫・妻の役割

【全員に】

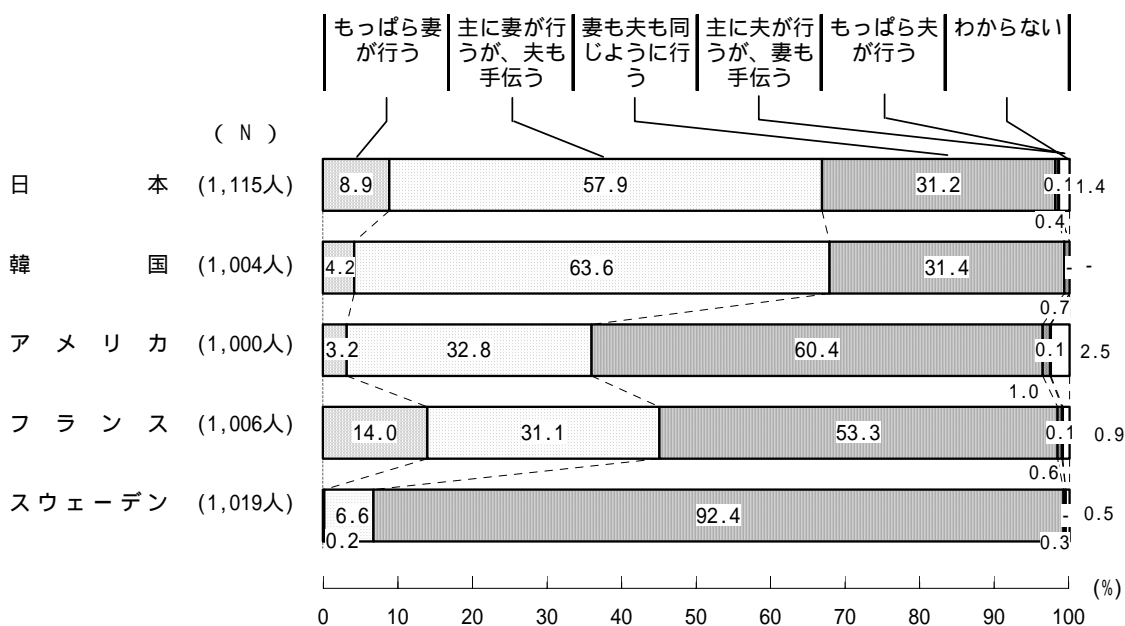
問 31 〔カード 27〕 小学校入学前の子どもの育児における夫・妻の役割についてあなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 もっぱら妻が行う      | 4 主に夫が行うが、妻も手伝う |
| 2 主に妻が行うが、夫も手伝う | 5 もっぱら夫が行う      |
| 3 妻も夫も同じように行う   | 6 わからない         |

小学校入学前の子どもの育児における夫・妻の役割について聞いたところ、日本では、「もっぱら妻が行う」(8.9%)と「主に妻が行うが、夫も手伝う」(57.9%)を合わせた『主に妻が行う』が66.8%と高く、「主に夫が行うが、妻も手伝う」(0.4%)と「もっぱら夫が行う」(0.1%)を合わせた『主に夫が行う』(0.5%)を圧倒的に上回っている。また、「妻も夫も同じように行う」は31.2%となっている。

各国比較でみると、日本のように、『主に妻が行う』が高いのは韓国(67.9%)のみで、他は「妻も夫も同じように行う」が、アメリカ(60.4%)、フランス(53.3%)、特にスウェーデン(92.4%)で圧倒的に高くなっている。(図3-4)

図3-4



(2) 育児の中で、妻よりも夫の方が主に行っていること

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 32 [カード 28] 小学校入学前の育児について、あなたのご家庭の中で、夫が妻と同程度あるいは夫の方が主として行っている(行っていた)ことは何ですか。当てはまるものをいくつかでも選んでください。(M.A.)

- 1 食事の世話をする
- 2 おむつを取り換える
- 3 入浴させる
- 4 寝かしつける
- 5 家の中で、話しや遊び相手をする
- 6 散歩など、屋外へ遊びに連れていく
- 7 日常生活上のしつけ
- 8 保育所・幼稚園(日中預けている場所)の送り迎え
- 9 ベビーシッター等の手配・交渉
- 10 その他(具体的に )
- 11 何もしていない
- 12 わからない

子育て経験者に、小学校入学前の育児について、家庭の中で、夫が妻と同程度あるいは夫の方が主として行っている(行っていた)ことを聞いたところ、日本では、「入浴させる」(62.8%)は6割、「散歩など、屋外へ遊びに連れていく」(44.4%)、「家の中で、話しや遊び相手をする」(39.7%)は4割となっているが、日常のしつけや寝かしつけは2割となっている。

各国比較でみると、日本以外は「家の中で、話しや遊び相手をする」が最も多くなっている。スウェーデンではほとんどの項目が7～8割となっている。アメリカとフランスでも日常のしつけや寝かしつけが6割となっている。(表3-3)

表3-3

(%)

国名	順位	1	2	3	4	5
日 本	721	入浴させる 62.8	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 44.4	家の中で、話しや 遊び相手をする 39.7	日常生活上のしつ け 20.8	寝かしつける 17.9
韓 国	606	家の中で、話しや 遊び相手をする 61.4	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 54.6	入浴させる 50.1	おむつを取り換え る 46.5	食事の世話をする 40.8
ア メ リ カ	633	家の中で、話しや 遊び相手をする 67.5	日常生活上のしつ け 63.8	寝かしつける 59.4	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 57.0	食事の世話をする 46.3
フ ラ ン ス	601	家の中で、話しや 遊び相手をする 70.8	寝かしつける 61.6	日常生活上のしつ け 61.4	食事の世話をする 61.0	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 60.6
スウェーデン	621	家の中で、話しや 遊び相手をする 80.4	寝かしつける 77.3	おむつを取り換え る 75.5	入浴させる 73.6	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 73.3

(3) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

【全員に】

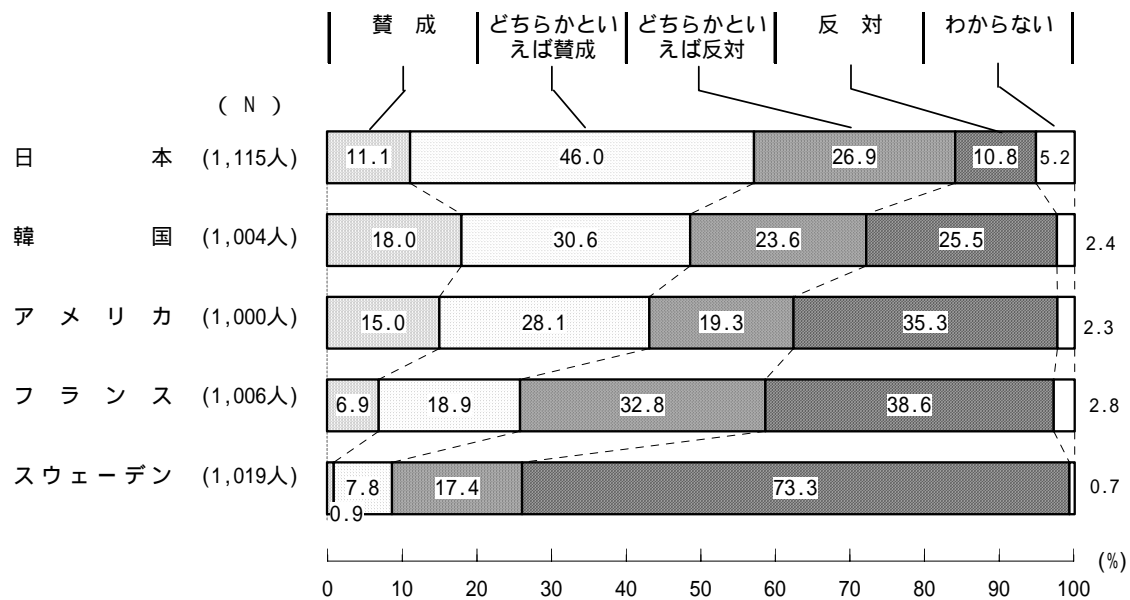
問 33 [カード 29] 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたは、どのように考えますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- |              |         |
|--------------|---------|
| 1 賛成         | 4 反対    |
| 2 どちらかといえば賛成 | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば反対 |         |

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように考えるか聞いたところ、日本では、「賛成」(11.1%)と「どちらかといえば賛成」(46.0%)を合わせた『賛成』が57.1%を占め、「どちらかといえば反対」(26.9%)と「反対」(10.8%)を合わせた『反対』(37.7%)を上回っている。

各国比較でみると、日本以外では、アメリカと韓国で『賛成』と『反対』がおおむね二分しているものの、スウェーデンとフランスでは、『反対』が『賛成』を圧倒的に上回っている。(図3-5)

図3-5





## 4 仕事と家庭の両立について

### (1) いわゆる三歳児神話に対する考え方について

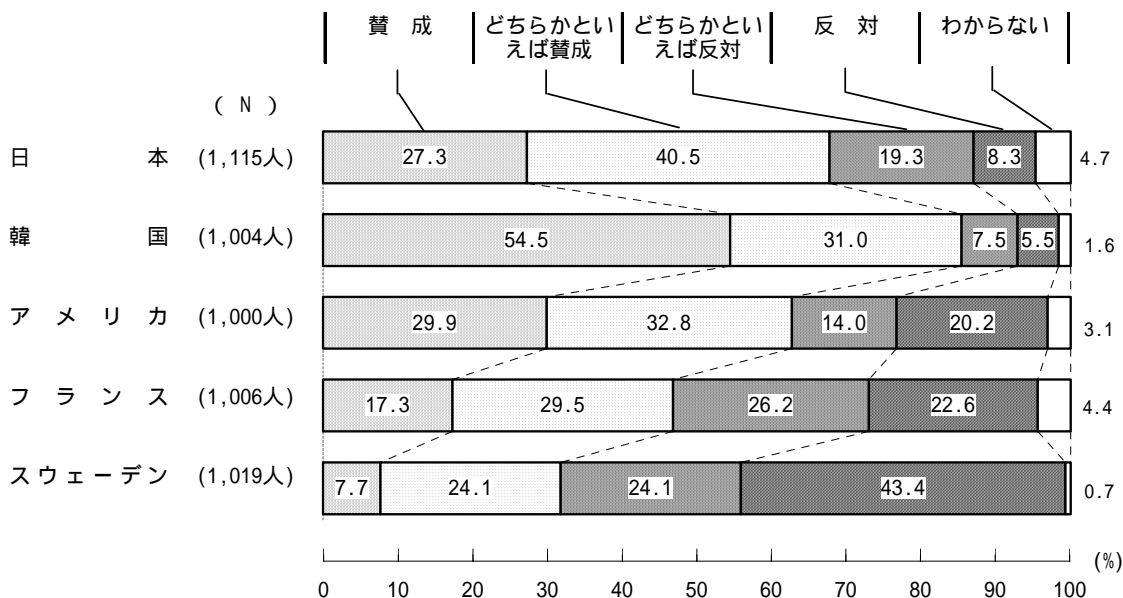
問 34 [カード 29] 子どもが3歳くらいまでの間は、保育所等を利用せずに母親が家庭で子どもの世話をすべきだという意見に対して、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- |              |         |
|--------------|---------|
| 1 賛成         | 4 反対    |
| 2 どちらかといえば賛成 | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば反対 |         |

子どもが3歳くらいまでの間は、保育所等を利用せずに母親が家庭で子どもの世話をすべきだという意見に対して、どう思うか聞いたところ、日本では、「賛成」(27.3%)と「どちらかといえば賛成」(40.5%)を合わせた『賛成』が67.8%を占め、「どちらかといえば反対」(19.3%)と「反対」(8.3%)を合わせた『反対』(27.5%)を大きく上回っている。

各国比較でみると、日本以外では、アメリカ(62.7%)、韓国(85.5%)で『賛成』が、スウェーデン(67.5%)で『反対』がそれぞれ高くなっている。フランスは『賛成』(46.8%)と『反対』(48.8%)に意見が拮抗している。(図3-6)

図3-6



( 2 ) 女性の理想のライフコース

問 35 [カード 30] 育児と仕事との関係で、あなたが考える女性の理想の生き方は次のどれですか。  
あてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1 結婚も出産もせず、働き続ける
- 2 出産しないで働き続ける
- 3 出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける
- 4 出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく
- 5 出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く
- 6 出産退職後は、育児に専念する
- 7 出産の有無に関係なく、結婚後は働かない
- 8 その他(具体的に )
- 9 わからない

育児と仕事との関係で、考えられる女性の理想の生き方を聞いたところ、日本では、「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」(57.8%)が最も高く、次いで「出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」(25.8%)などとなっている。

各国比較でみると、韓国では、日本と同じく「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」(61.2%)が6割を占めている。

フランスとアメリカでは、「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」と「出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」が、ほぼ同じ割合となっている。

スウェーデンでは「出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける」(61.1%)が6割を占めている。(表3 - 4)

表 3 - 4

		( % )									
	全 体	結婚も出 産もせ ず、働 き続 ける	出産しな いで働 き続 ける	出産後、 成長に 関係なく働 き続 ける	出産後、 成長に 応じて働 き方 変 える	出産を機 に退職し 手が離 れたら働 く	出産退職 後は、育 児に専 念する	出産に 関係なく、 結婚後は 働かない	その他	わか らな い	
[国 別]	(N)										
日 本	1,115	0.4	0.4	7.8	57.8	25.8	3.9	1.3	0.4	2.2	
韓 国	1,004	1.0	0.1	11.4	61.2	18.1	4.0	2.4	-	1.8	
ア メ リ カ	1,000	2.8	1.2	15.0	32.3	34.6	7.3	0.6	2.4	3.8	
フ ラ ンス	1,006	2.1	1.6	13.5	38.6	35.0	4.9	1.1	1.1	2.2	
スウェーデン	1,019	1.1	0.9	61.1	14.1	18.0	0.1	0.2	2.6	1.9	

## 5 利用した制度

### 子育てにあたって利用した制度

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 36 〔カード 31〕あなた、またはあなたの配偶者（同棲相手）が、子育てにあたって利用した制度は次のうちどれですか。いくつでも選んでください。（M.A.）

- 1 産前・産後休業制度
- 2 育児休業制度
- 3 父親休暇制度（父親のみに対して、一定期間与えられた休暇制度）
- 4 短時間勤務制度
- 5 子どもの看護のための休暇制度
- 6 保育所（認可以外の保育所、保育園等を含む）
- 7 家庭保育（ベビーシッター等）
- 8 企業が従業員のためにつくった託児所
- 9 幼稚園
- 10 放課後児童クラブ
- 11 地域における子育て支援サービス（ファミリーサポート、つどいの広場など）
- 12 その他（具体的に ）
- 13 特にない
- 14 わからない

子育て経験者に、子育てにあたって利用した制度を聞いたところ、日本では、「幼稚園」（39.1%）が最も高く、次いで「保育所（認可以外の保育所、保育園等を含む）」（29.4%）、「特にない」（26.1%）、「産前・産後休業制度」（18.6%）、「育児休業制度」（9.6%）の順となっているが、利用率はおおむね低くなっている。

各国比較でみると、スウェーデンでは、「育児休業制度」（94.7%）、「保育所」（84.2%）、「父親休暇制度」（77.6%）、「産前・産後休暇」（68.4%）、「幼稚園」（68.0%）など、制度の利用率が5か国の中で最も高くなっている。

韓国では、日本と同じく「幼稚園」（46.6%）、「特にない」（31.5%）の割合が高く、「育児休業制度」（6.6%）の利用は少ない。

アメリカ（48.2%）フランス（46.4%）では「産前・産後休業制度」が最も高く、5割を占めている。（表3-5）

表3-5

(%)

国名	順位	1	2	3	4	5
日 本	721	幼稚園 39.1	保育所 29.4	特にない 26.1	産前・産後休業制度 18.6	育児休業制度 9.6
韓 国	606	幼稚園 46.6	特にない 31.5	産前・産後休業制度 15.5	保育所 11.3	育児休業制度 6.6
ア メ リ カ	633	産前・産後休業制度 48.2	子どもの看護のための休暇制度 42.8	企業が従業員向けにつくった託児所 38.5	保育所 36.5	父親休暇制度 27.3
フ ラ ンス	601	産前・産後休業制度 46.4	幼稚園 42.8	育児休業制度 41.7	父親休暇制度 18.1	保育所 17.3
スウェーデン	621	育児休業制度 94.7	保育所 84.2	父親休暇制度 77.6	産前・産後休業制度 68.4	幼稚園 68.0

## 6 子どもの育て方

### (1) 子どもの成長に対する経済的援助はどこまでするかについて

【全員に】

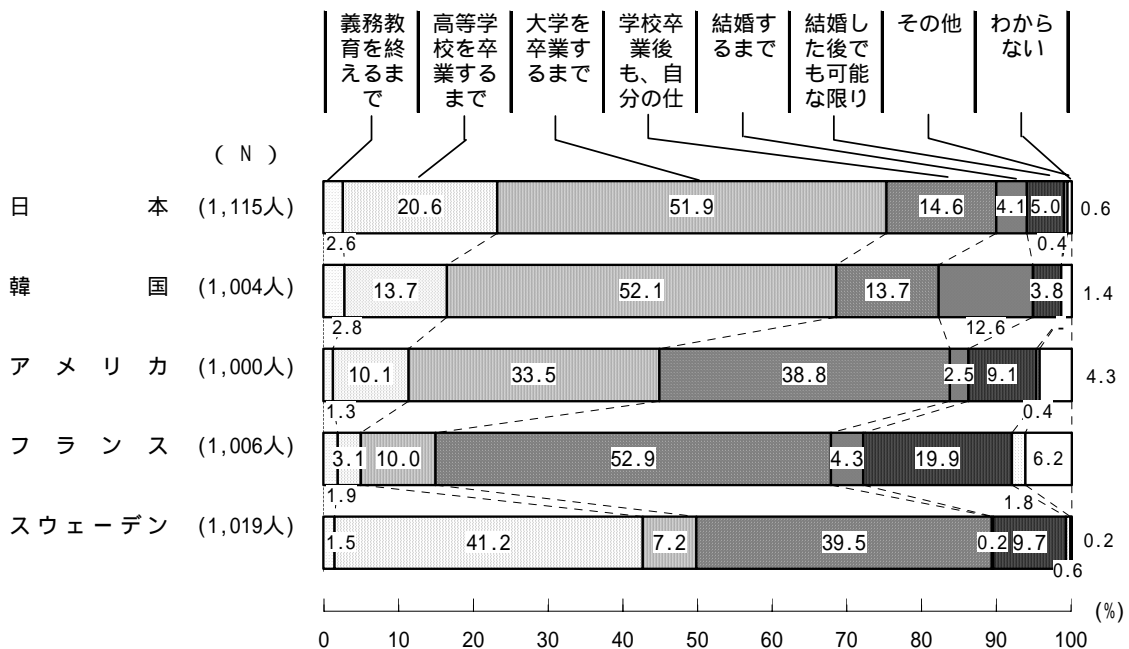
問 37 [カード 32] あなたは、子どもの成長に対して、経済的にどこまで面倒をみるべきだと考えていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1 義務教育を終えるまで
- 2 高等学校を卒業するまで
- 3 大学を卒業するまで
- 4 学校卒業後でも、自分自身の仕事を持つまで
- 5 結婚するまで
- 6 結婚した後も可能な限り支援する
- 7 その他（具体的に )
- 8 わからない

子どもの成長に対して、経済的にどこまで面倒をみるべきだと考えているか聞いたところ、「大学を卒業するまで」(51.9%)が最も高く、次いで「高等学校を卒業するまで」(20.6%)、「学校卒業後でも、自分自身の仕事を持つまで」(14.6%)などとなっている。

各国比較でみると、日本と同じく「大学を卒業するまで」が最も多いのは韓国(52.1%)で、アメリカ(38.8%)とフランス(52.9%)では、「学校卒業後でも、自分自身の仕事を持つまで」が最も多く、スウェーデン(41.2%)では「高等学校を卒業するまで」が最も多くなっている(図3-7)。

図3-7



(2) 突然の用事の際に、子どもの面倒を誰に頼むかについて

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 38 [カード 33] 突然の用事のために、子どもの面倒をみることができないとき、誰に最初に援助を頼みますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1 配偶者(同棲相手を含む。以下同じ)
- 2 自分の親または配偶者の親
- 3 自分のきょうだいまたは配偶者のきょうだい
- 4 近所の人
- 5 友人
- 6 保育所の一時的保育サービス
- 7 ボランティアなどの地域の保育サービス
- 8 その他(具体的に )
- 9 わからない

突然の用事のために、子どもの面倒をみることができないとき、誰に最初に援助を頼むか聞いたところ、「自分の親または配偶者の親」(58.5%)が最も高く、次いで「配偶者(同棲相手を含む。)」(34.3%)が続いている。

各国比較でみると、日本と同じく「自分の親または配偶者の親」が多かったのは韓国(48.7%)で、アメリカ(57.5%)、スウェーデン(77.5%)、フランス(43.3%)では、「配偶者(同棲相手を含む。)」が最も多くなっている(表3-6)。

表 3 - 6

		(%)									
	全 体	配偶者 (同棲相 手を含 む)	自分の親 または配 偶者の親	自分や配 偶者のき ょうだい	近所の人	友 人	保育所の一時的保 育サービ ス	ボランテ ィア等の 地域保育 サービス	その他	わか らな い	
〔国 別〕	(N)										
日 本	721	34.3	58.5	2.1	1.2	2.2	0.6	0.1	0.6	0.4	
韓 国	606	31.6	48.7	10.2	7.9	0.3	1.2	-	-	-	
ア メ リ カ	633	57.5	27.0	9.0	0.6	3.3	-	-	1.6	0.9	
フ ラ ンス	601	43.3	35.8	3.9	3.9	7.8	0.2	0.4	4.0	0.7	
ス ウ ェ ー デ ン	621	77.5	7.4	4.3	-	2.3	0.2	0.3	7.2	0.8	

(3) 子どもを生み育てやすい国かどうかについて

【全員に】

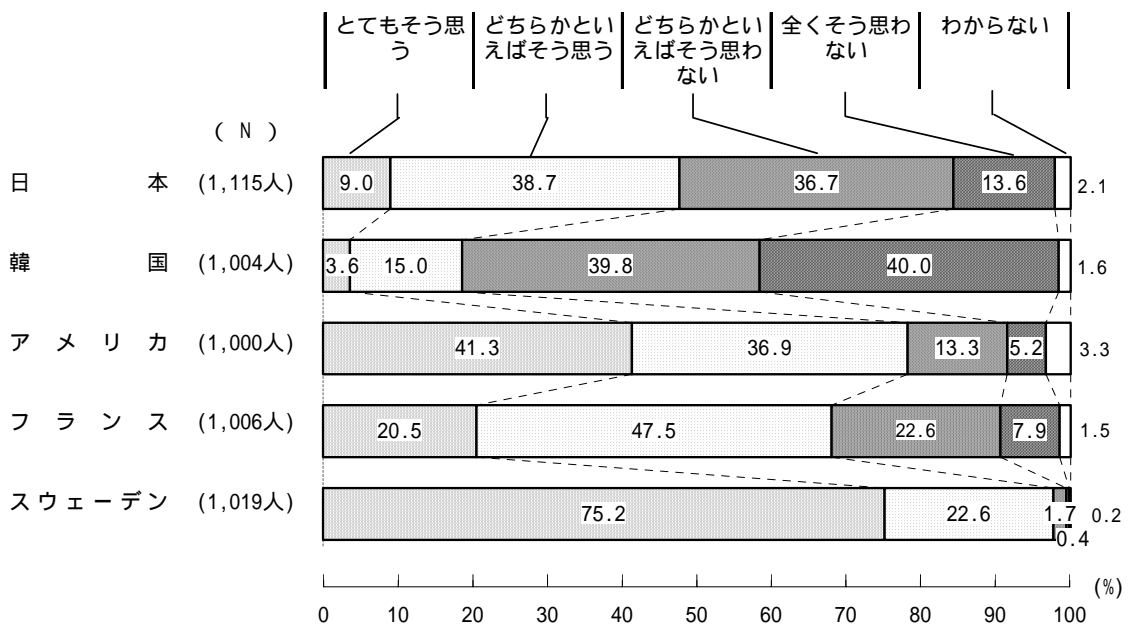
問 39 [カード 34] 日本は、子どもを生み育てやすい国だと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1 とてもそう思う        | 4 全くそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う   | 5 わからない    |
| 3 どちらかといえばそう思わない |            |

あなたの国は、子どもを生み育てやすい国だと思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思わない」(36.7%)と「全くそう思わない」(13.6%)を合わせた『そう思わない』は50.3%を占め、「とてもそう思う」(9.0%)と「どちらかといえばそう思う」(38.7%)を合わせた『そう思う』(47.6%)を上回っている。

各国比較でみると、日本と同じく『そう思わない』傾向は韓国(79.8%)のみである。一方、『そう思う』が高いのは、スウェーデン(97.7%)、アメリカ(78.2%)、フランス(68.0%)の順であり、特にスウェーデンではほぼ100%に達している。(図3-8)

図3-8



# 社会的支援について

## 結婚・出産・育児を支援する政策についての意識

### (1) 未婚者の結婚を促進する施策を国が実施すべきかについて

問 40 [カード 35] 「未婚者の結婚を促進する施策を国が実施すべきである」という考え方について、次の中からあなたの意見に最も近いものを、1つだけ選んでください。

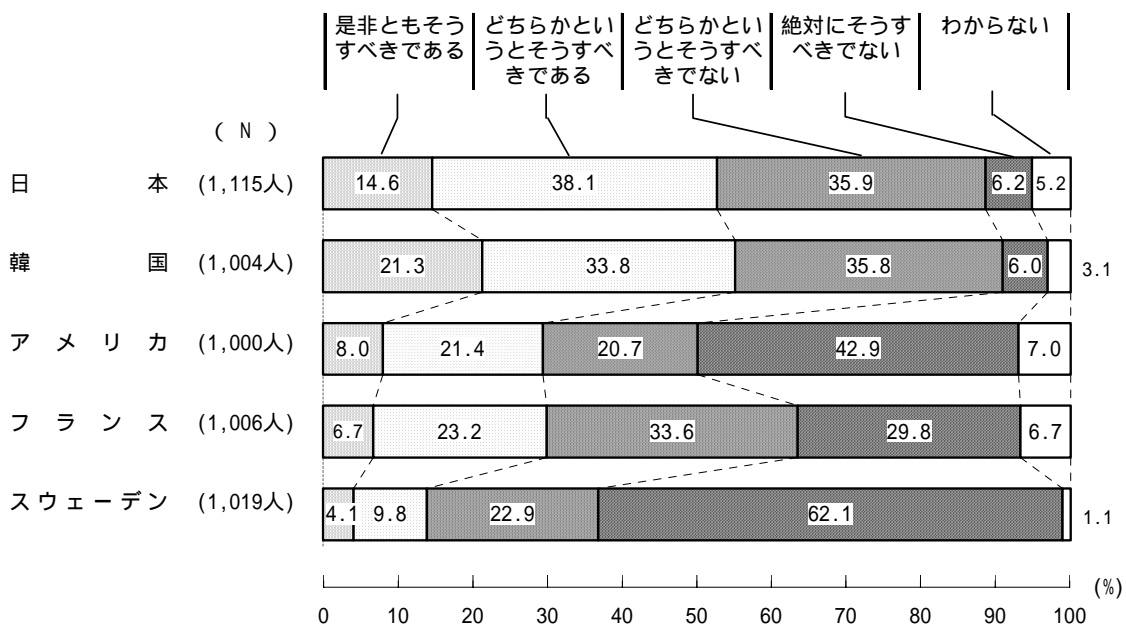
- 1 是非ともそうすべきである
- 2 どちらかというそうすべきである
- 3 どちらかというそうすべきでない
- 4 絶対にそうすべきでない
- 5 わからない

「未婚者の結婚を促進する施策を国が実施すべきである」という考え方について、どう思うか聞いたところ、日本では、「是非ともそうすべきである」(14.6%)と「どちらかというそうすべきである」(38.1%)を合わせた『そうすべきである』は52.7%を占め、「どちらかというそうすべきでない」(35.9%)と「絶対にそうすべきでない」(6.2%)を合わせた『そうすべきでない』(42.1%)を上回っている。

各国比較でみると、日本と同じく『そうすべきである』が多いのは韓国(55.1%)のみとなっている。

特にスウェーデンでは、「絶対にそうすべきでない」が62.1%を占めている。アメリカとフランスでも、『そうすべきでない』が『そうすべきである』の約2倍となっている。(図4-1)

図4-1



(2) 未婚者の結婚を促進する施策として何が重要かについて

問 41 [カード 36] 未婚者の結婚を促進する施策として何が重要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを、2つまで選んでください。(2 M.A.)

- 1 雇用対策をもって、安定した雇用機会を提供すること
- 2 賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること
- 3 結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと
- 4 出会いの場を提供すること
- 5 結婚した方が有利となるような税制を行うこと
- 6 夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実
- 7 若者の結婚を推奨するような啓蒙活動を行うこと
- 8 その他(具体的に )
- 9 特にない
- 10 わからない

未婚者の結婚を促進する施策として何が重要だと思うか聞いたところ、日本では、「夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実」(43.8%)が最も高く、次いで「雇用対策をもって、安定した雇用機会を提供すること」(35.5%)、「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること」(31.9%)などとなっている。

各国比較でみると、アメリカ(39.4%)とフランス(34.2%)では、「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること」が、韓国では「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」(49.9%)が、スウェーデンでは「雇用対策をもって、安定した雇用機会を提供すること」(36.2%)がそれぞれ最も多くなっている。(表4-1)

表4-1

(%)

国名	順位	1	2	3	4	5
日本	1115	夫婦がともに働ける職場環境の充実 43.8	安定した雇用機会を提供すること 35.5	安定した家計を営めるよう支援する 31.9	結婚や住宅の資金貸与や補助を行う 29.3	結婚した方が有利となる税制を行う 18.8
韓国	1004	結婚や住宅の資金貸与や補助を行う 49.9	安定した雇用機会を提供すること 49.0	夫婦がともに働ける職場環境の充実 32.1	安定した家計を営めるよう支援する 22.7	結婚した方が有利となる税制を行う 20.8
アメリカ	1000	安定した家計を営めるよう支援する 39.4	結婚した方が有利となる税制を行う 30.8	夫婦がともに働ける職場環境の充実 24.1	安定した雇用機会を提供すること 21.7	結婚や住宅の資金貸与や補助を行う 15.0
フランス	1006	安定した家計を営めるよう支援する 34.2	夫婦がともに働ける職場環境の充実 31.9	安定した雇用機会を提供すること 28.3	特にない 18.6	結婚した方が有利となる税制を行う 18.4
スウェーデン	1019	安定した雇用機会を提供すること 36.2	結婚した方が有利となる税制を行う 28.0	安定した家計を営めるよう支援する 27.8	特にない 18.1	夫婦がともに働ける職場環境の充実 13.7



(3) 妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策を国が実施すべきかについて

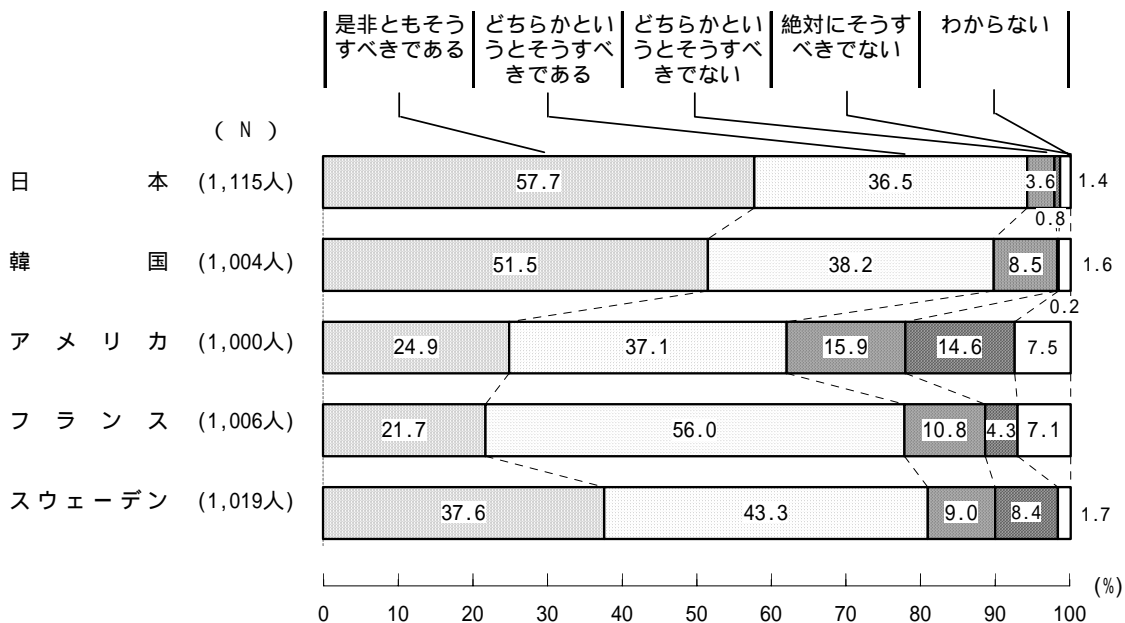
問 42 [カード 37] 「妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策を国が実施すべきである」という考え方について、次の中からあなたの意見に最も近いものを、1つだけ選んでください。

- 1 是非ともそうすべきである
- 2 どちらかというそうすべきである
- 3 どちらかというそうすべきでない
- 4 絶対にそうすべきでない
- 5 わからない

「妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策を国が実施すべきである」という考え方について、どう思うか聞いたところ、日本では、「是非ともそうすべきである」(57.7%)と「どちらかというそうすべきである」(36.5%)を合わせた『そうすべきである』は94.2%と高率を占め、「どちらかというそうすべきでない」(3.6%)と「絶対にそうすべきでない」(0.8%)を合わせた『そうすべきでない』(4.4%)を大きく上回っている。

各国比較でも、いずれの国も日本と同じく『そうすべきである』が『そうすべきでない』を上回っている。(図4-2)

図4-2



(4) 妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策として何が重要かについて

問 43 [カード 38] 妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策として何が重要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを、2つまで選んでください。(2 M.A.)

- 1 出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと
- 2 不妊治療に対して助成すること
- 3 妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること
- 4 産前・産後の休業期間を拡大すること
- 5 母子保健サービスを充実すること
- 6 家事援助などを行うヘルパーの訪問サービスの充実
- 7 その他(具体的に )
- 8 特にない
- 9 わからない

妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策として何が重要だと思いか聞いたところ、日本では、「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」(64.3%)が最も高く、次いで「妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること」(38.2%)、「産前・産後の休業期間を拡大すること」(30.3%)などとなっている。

各国比較でみると、日本と同じく「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」が最も多かったのは韓国で、アメリカ(49.4%)とフランス(46.7%)では「妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること」が、スウェーデンでは「産前・産後の休業期間を拡大すること」(61.6%)がそれぞれ最も多くなっている。(表4-2)

表4-2

順位		(%)				
国名		1	2	3	4	5
日 1115	本	出産費用を助成し自己負担をなくす 64.3	妊娠中の健診を無料で受けられる 38.2	産前・産後の休業期間を拡大する 30.3	母子保健サービスを充実すること 25.1	不妊治療に対して助成すること 17.3
韓 1004	国	出産費用を助成し自己負担をなくす 58.8	妊娠中の健診を無料で受けられる 42.5	産前・産後の休業期間を拡大する 40.7	母子保健サービスを充実すること 23.8	ヘルパーの訪問サービスの充実 15.0
ア 1000	メ リ カ	妊娠中の健診を無料で受けられる 49.4	出産費用を助成し自己負担をなくす 38.2	産前・産後の休業期間を拡大する 34.3	母子保健サービスを充実すること 11.3	ヘルパーの訪問サービスの充実 10.2
フ 1006	ラ ン ス	妊娠中の健診を無料で受けられる 46.7	産前・産後の休業期間を拡大する 42.3	母子保健サービスを充実すること 24.1	ヘルパーの訪問サービスの充実 23.9	出産費用を助成し自己負担をなくす 15.7
ス 1019	ウ ェ ー デン	産前・産後の休業期間を拡大する 61.6	妊娠中の健診を無料で受けられる 32.6	母子保健サービスを充実すること 26.2	出産費用を助成し自己負担をなくす 18.4	不妊治療に対して助成すること 16.9

( 5 ) 育児を支援する施策を国が実施すべきかについて

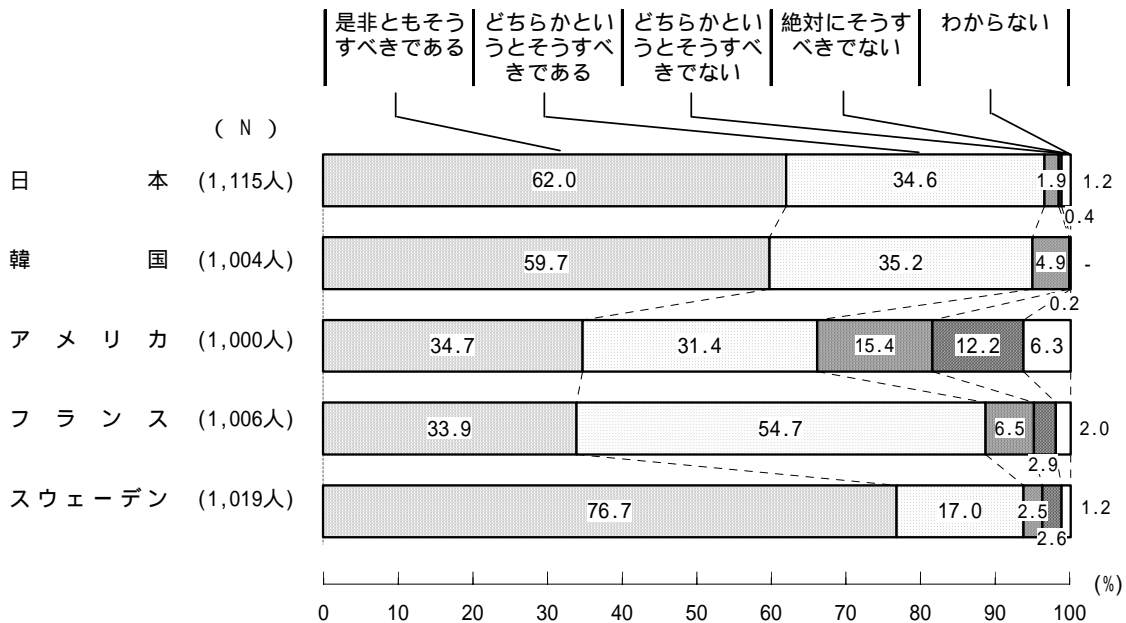
問 44 [カード 39]「育児を支援する施策を国が実施すべきである」という考え方について、次の中からあなたの意見に最も近いものを、1つだけ選んでください。

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1 是非ともそうすべきである    | 4 絶対にそうすべきでない |
| 2 どちらかというそうすべきである | 5 わからない       |
| 3 どちらかというそうすべきでない |               |

「育児を支援する施策を国が実施すべきである」という考え方について、どう思うか聞いたところ、日本では、「是非ともそうすべきである」(62.0%)と「どちらかというそうすべきである」(34.6%)を合わせた『そうすべきである』は96.6%と高率を占め、「どちらかというそうすべきでない」(1.9%)と「絶対にそうすべきでない」(0.4%)を合わせた『そうすべきでない』(2.2%)を大きく上回っている。

各国比較でも、いずれの国も日本と同じく『そうすべきである』が『そうすべきでない』を上回っている。(図4-3)

図4-3



(6) 育児を支援する施策として何が重要かについて

問 45 (カード 40) 育児を支援する施策として何が重要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを、5 つまで選んでください。(5 M.A.)

- 1 保育所の時間延長など、多様な保育サービスの充実
- 2 ベビーシッターや保育ママなど、家庭保育を充実させること
- 3 企業のファミリーフレンドリー政策を充実させること
- 4 フレックスタイムやパートタイム労働の導入など、柔軟な働き方を推し進めること
- 5 児童手当など、子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実
- 6 扶養控除など、子育ての経済的負担を軽減するための税制上の措置
- 7 育児休業を取りやすい職場環境の整備
- 8 男性に対する一定期間の育児休暇の義務付け
- 9 育児休業中の所得保障の充実
- 10 出産・育児による退職後の職場復帰の保障の充実
- 11 小児医療の充実
- 12 教育費の支援、軽減
- 13 子どもを産み育てることの喜び、楽しさの啓発
- 14 公園など、子どもを安心して育てられる環境の整備
- 15 子どもに対する犯罪の防止など、地域における治安の確保
- 16 その他(具体的に )
- 17 特にない
- 18 わからない

育児を支援する施策として何が重要だと思うか聞いたところ、日本では、「児童手当など、子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実」(67.5%)が最も高く、次いで「保育所の時間延長など、多様な保育サービスの充実」(55.5%)、「扶養控除など、子育ての経済的負担を軽減するための税制上の措置」(47.0%)、「教育費の支援、軽減」(42.8%)などとなっている。

各国比較でみると、韓国では「保育所の時間延長など、多様な保育サービスの充実」(60.6%)、「教育費の支援、軽減」(58.0%)などが多くっており、アメリカ(42.8%)スウェーデン(59.9%) フランス(51.3%)ではいずれも「フレックスタイムやパートタイム労働の導入など、柔軟な働き方を推し進めること」が最も多くなっている。(表4-3)

表 4 - 3

順位		(%)				
国名		1	2	3	4	5
日 本	1115	児童手当など、手当の充実 67.5	多様な保育サービスの充実 55.5	扶養控除など、税制上の措置 47.0	教育費の支援、軽減 42.8	フレックスなど柔軟な働き方の推進 39.7
韓 国	1004	多様な保育サービスの充実 60.6	教育費の支援、軽減 58.0	児童手当など、手当の充実 52.2	企業のファミリーフレンドリー政策の充実 51.0	出産退職後の職場復帰の保障の充実 38.3
ア メ リ カ	1000	フレックスなど柔軟な働き方の推進 42.8	多様な保育サービスの充実 34.7	企業のファミリーフレンドリー政策の充実 33.9	犯罪防止など地域における治安確保 31.9	児童手当など、手当の充実 29.9
フ ラ ンス	1006	フレックスなど柔軟な働き方の推進 51.3	児童手当など、手当の充実 46.2	扶養控除など、税制上の措置 41.0	教育費の支援、軽減 39.4	育児休業を取りやすい職場環境整備 38.2
スウェーデン	1019	フレックスなど柔軟な働き方の推進 59.9	育児休業を取りやすい職場環境整備 44.1	児童手当など、手当の充実 40.8	出産退職後の職場復帰の保障の充実 37.9	犯罪防止など地域における治安確保 35.9

(7) 少子化問題に対する責任の所在について

問 46 [カード 41] 出生率が低下して子どもの数が減るといふ、いわゆる少子化問題に対して、誰が一番責任をもって対応すべきだと思いますか。この中からあなたの考えに最も近いものを、1つだけ選んでください。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 国民ひとりひとり  | 6 労働組合       |
| 2 国         | 7 その他(具体的に ) |
| 3 地方自治体     | 8 誰にも責任はない   |
| 4 地域社会や市民団体 | 9 わからない      |
| 5 企業        |              |

出生率が低下して子どもの数が減るといふ、いわゆる少子化問題に対して、誰が一番責任をもって対応すべきだと思うか聞いたところ、日本では、「国民ひとりひとり」が45.7%と最も高く、「国」(34.3%)がこれに続いている。

各国比較でみると、韓国以外は、いずれも日本と同じく「国民ひとりひとり」が最も多くなっており、韓国では「国」(62.9%)が「国民ひとりひとり」(30.8%)よりも多くなっている。(表4-4)

表4-4

		(%)								
	全 体	国民ひとりひとり	国	地方自治体	地域社会や市民団体	企 業	労働組合	その他	誰にも責任はない	わからない
[国 別]	(N)									
日 本	1,115	45.7	34.3	3.0	2.1	2.7	0.1	0.1	10.8	1.3
韓 国	1,004	30.8	62.9	0.7	0.9	1.0	0.1	0.4	1.7	1.6
ア メ リ カ	1,000	62.1	9.6	4.6	1.8	0.5	0.5	0.7	11.2	9.0
フ ラ ンス	1,006	48.9	30.8	2.0	1.1	0.6	0.2	0.5	12.3	3.6
スウェーデン	1,019	54.8	35.2	3.9	1.3	1.1	0.3	0.9	0.9	1.7

# 生活意識について

## (1) 現在の生活の満足度

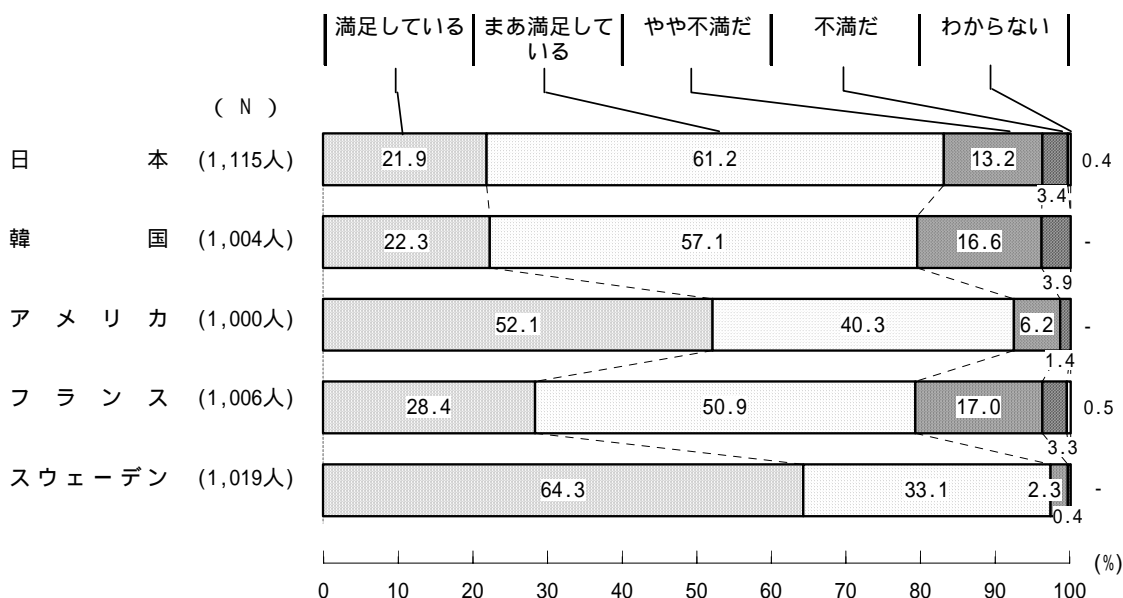
問 47 [カード 42] あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。この中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

1 満足している      2 まあ満足している      3 やや不満だ      4 不満だ      5 わからない

全体として、現在の生活にどの程度満足しているか聞いたところ、「満足している」(21.9%)と「まあ満足している」(61.2%)を合わせた『満足している』が83.0%と高く、「やや不満だ」(13.2%)と「不満だ」(3.4%)を合わせた『不満だ』(16.6%)を大きく上回っている。

各国比較でも、いずれも日本と同じく『満足している』が『不満だ』を大きく上回っている(図5-1)。

図5-1



( 2 ) 自分自身の生活状況の見通し

問 48 [カード 43] あなたの生活は、これから先、どうなっていくと思いますか。この中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

1 2 3 4  
良くなっていく 同じようなもの 悪くなっていく わからない

自分の生活が、これから先、どうなっていくと思うか聞いたところ、「同じようなもの」が54.6%を占め、「良くなっていく」は27.6%となっている。

各国比較でみると、日本では「同じようなもの」が最も高かったが、他の国ではいずれも「良くなっていく」が5割以上から8割弱と最も高くなっている(図5-2)。

図5-2

